

三中図書館だより



令和4年度 No. 10

1月13日 図書文化委員会

学校司書 発行

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

冬休みはどのように過ごしましたか？ 私は毎年、テレビで箱根駅伝に夢中になります。生中継も見ますが、選手やチームの裏側をクローズアップした特別番組も好きです。駅伝が舞台の小説もたくさん出版されていて、共通することは、自分のためだけでなく、誰かのためにがんばることかな、と思います。

3年生は受験に向けてラストスパートですね。みんなで「襷をつなぐために」がんばることで、自分ひとりでは出せない力が出るのではないのでしょうか。「つながる読書」もみんなでコツコツとつないで8万ページを達成できるといいですね。

つながる読書



順位ページ数

1位 5,929 3年 権元 沙耶さん

2位 5,533 2年 知家 日菜乃さん

3位 5,280 3年 松井 菜乃華さん

読書ページ総数 **56,136 ページ** ~ | / | |



埼玉県行田市にある老舗足袋業者「こはぜ屋」。社長の宮沢紘一は会社存続のために、新規事業を思い立つ。それは、伝統の技術を駆使したランニングシューズの開発だった。

テレビドラマ化もされた作品です。数年前に箱根駅伝でも、シューズが話題になりました。シューズ職人やそれを販売する人も選手を支えていることがわかります。(『陸王』)

陸上の名門高校で長距離選手として期待されていた真家早馬は、大けがを負いリハビリ中。そんな時に会ったのが、調理実習部の都。一学年下の弟の春馬やライバルたちは早馬が戻ってくるのを待っているが、早馬は料理に熱中していく……

身体を支える基本となる食生活。食事を作る人の思いも背負って選手は走っているのです。高校駅伝と箱根駅伝を走っている描写に加え、料理のメニューもたくさん出てきます。どれも参考になるものばかりです！

シーズン2, 3も発売されています。寮での食事や東京五輪選手村が舞台となっていて、早馬のその後も描かれています。(『タスキメシ』)

それぞれの県から選抜された中学生から社会人までの選手たちが、それぞれの悩みや葛藤を抱えながら、県の代表として思いを一つにして襷をつなぎます。

「全国都道府県対抗駅伝」、今年は15日に開催されます。練習環境も、考え方も違うメンバーの集まりは、同じチームで襷をつなぐよりもより難しい課題があると思います。タイトルの「白」の意味が読み終わるとわかります。(『白をつなぐ』)

部長の柘井は、中学校最後の駅伝大会に向けてメンバーを募り、練習を始めるが、陸上を知らない頼りない顧問や寄せ集めのメンバーに前途多難な日々。

めんどくさいからやりたくない、けれど、やってみたら少し景色が変わった、そんな風に思わせてくれるお話です。中学生のみなさんには一番身近な小説かもしれません。

2区を走る太田君が主人公となった小説も出版されています！

(『あと少し、もう少し』)